

感謝心が人を作る…

(母難日)

昔から言います。「小さく産んで大きく育てる」と。まさに我が愛娘「天花(てんか)」にもピッタリのセリフです。16日予定を早めて生まれ出てきた愛娘は2千5百70グラムと小ぶりでしたが、その後、順調に成長し、1ヶ月経過した現在の体重は、約3千8百グラムにまで達しました。それもこれも沢山の皆さんからの、励ましのお言葉、お祝いを頂戴したお陰だと我々は有り難く思っております。取り急ぎ、紙面を借りて御礼申し上げます。

さて、徒然に今月号も親バカ発言：いや、「親の覚悟」として、お話しをさせて頂きたく存じます。

生まれたばかりの子供は、「可愛い、可愛い」で無条件に皆から愛されます。しかし子供達は成長するに従って、段々憎たらしく思うようになるのも事実でしょう。

親御さんが今まで心魂込めて育てた可愛い子供なのに、その子供も気が付いたら一人で大きくなったような顔をして、親御さんに偉そうに言います。

「生んでくれと頼んだ覚えもないのに、勝手に生みやがって」と……。よくテレビドラマなんかでも同じ様な場面を見ることがあります。それ

に対して親御さんは、「確かにお前の言う通り、頼まれた覚えはないよね。それは済まなかつたねえ」と。しかし、そんな事で良いのでしょうか？ 本当の愛情って何なのでしょう？ 疑問に思ってしまう。じゃあどう答えれば良いのか？ 子供にこう言い返してあげて下さい。「頼んで生めるんだったら、お前のような馬鹿は生まなかつたぞ」と。親は子供に感謝されても、文句を言われる筋合いは無いんだから、もっと堂々としなければいけません。

確かに、現代社会には様々な問題もありませんから、なかなか難しいのかもしれませんが、堂々とできない親御さんが多い為に、少年少女の犯罪が一向に減らない原因でもあるのではないかと思えます。

親が子を選ぶんじゃない。子が親を選ぶんです。本当は、子供が次の世に出て来る時の、お父さんとお母さんを選んで、そのお腹の中に自分から入って来たんです。私達にはもう遠い昔のこと、既に記憶はありませんが、お経にはそう書いてあります。お釈迦様が嘘つきでなかつたらそうなんです。つまり、お腹の中に入ってきたのは、子供が親を自分で選んだ結果だということがいえるのです。

私が結婚スピーチを頼まれたら、この話をするんです。「君達これから新婚旅行に行くだろう。新婚初夜に夫婦の交わりはあると思うけど、その時に子供になるべき人が、あなた方を選んで入って来るんだよ。だから良い子供

に恵まれたければ、良い夫婦でなければ良い子は授かりませんよ。良い両親であつて下さいね。良い両親の所にのみ、良い子供が宿りますよ。子供が親を選ぶんです。親が子を選ぶんじゃないよ」という話をするんです。

親が子供を虐待して殺害したという事件が、テレビで放送されるとコメントーターの方は、「子供は親を選べないんですよ。子供は親を選べないんだから可哀想」と言っているでしょう。しかしそれは違う！ 実は子供が親を選んでくるんです。子供が親を選んで生まれて来るとするのが、仏法の道理なんです。

だから皆さん、もし子供が「産んでくれと頼んだ覚えもないのに…」なんて言ってきたら、ちゃんと子供に言い返してあげて下さい。

「断りも、承諾も無しに勝手に入り込んで来てたくせに、お前の方が問題だろ。今の法律に照らせば、(不法侵入)だぞ！ 十月十日の間、お母さんは家賃を請求したか？ これは(賃料不払い)じゃないか！ 訴訟を起こしたら勝てるぞ。その間誰から栄養を取った？ 臍の尾からだろ。十ヶ月分の無銭飲食だ。最後は生きるか、死ぬかのえらい目にあわせて、腹を痛めて生まれておいて、それで頼みもせんのに生みやがってとは何事だ！」と(笑)。

親御さんは子供を叱りとばすぐらいの元気が無ければダメです。日蓮宗にも縁の深い水戸光圀公はね、自分の誕生日を「誕生日」と表現しなかつたの

です。「母難日」と言っております。どういふ事かと言えは…

「我が母が難儀をして私をこの世に送り出して下さった日。その母に感謝する日です。誕生日のお祝いというのは、母に感謝をする日でなければならぬ」と…この発想は素敵ですよ。素晴らしいです。

やはり親御さんの教育が、自分ではなく、母親を思いやる人間へと創り上げたのでしょうか。どうです、皆さん。皆さんの息子さん、お嬢さんが誕生日に母難日だと言つて、温泉旅行の手ケツトでもくれましたか？ やはりその様に、育たなかつたのは、その様に教育してこなかつたということが言えますよ。これは極端な例でしたが、何事においても皆さんの生き様が、子供に反映するのです。だから何時の世においても、良い子供に恵まれようと思えば、良い親でなければならぬという事になるのではないのでしょうか。

とは言え、「言うは易し、行い難し」で、これがなかなか上手くいかない。簡単にできるなら誰だってやりますよ。

では最後に「良い親」とは一体どういふ親なのでしょう？ やはりそれは、我が子は勿論のこと、我が子だけではなく、周囲の人達の事を考え、理解する様に努力している親御さんのその姿という事になるのではないのでしょうか？ 子供は親の背中を

見て育つのであれば、その嘘偽りのない姿を見た時に、それが強烈な仏の姿として子供に染み付き、そして子供が学ぶのではないかと思えます。周囲の人間の心を分かつとするか、全く気にしないかで、私達の精神年齢や、人生というものに大きな開きが出てくるものです。どのような社会で生きるにせよ、私達は単独で生きる事は出来ません。それならば、自分を支えてくれている周囲に感謝する事は、人生で何より大切な事なのではないでしょうか。

自分の結果が子供に出るならば、愛娘「天花」の成長を微笑ましく見つめると同時に、1時1時が責任感と緊張感の連続なんだなあ…と、親としての意識を強める今日この頃です。

合掌

副住職 谷川 寛敬

